

当園ではこの度、平成 26 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直すいい機会となり、今後続けていくことにより、より一層幼児期の育ちについて責任を持つことができると思われまます。
今年度の学校関係者評価及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標	「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する
教育方針	「自立心・自主性の育成」
教育の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体を強く育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して) 2. 感情を豊かに、はじめある態度を育てる。(音楽リズム、造形活動を通して) 3. 自ら創意工夫する態度を育てる。(数と言葉の遊び、造形活動を通して) 4. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会・言葉を通して) <ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます」という 明るい心 ・「はい」という 素直な心 ・「すみません」という 反省の心 ・「わたしがします」という 積極的な心 ・「ありがとうございます」という 感謝の心 ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を全体的に見る目を養い、自己の教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身に付けることを重点項目とする。また、異年齢のかかわりが自園の特色である認識をもちながら充実した異年齢交流保育を行うよう、低年齢児とのかかわりを一層深め、充実に努める。幼児一人ひとりが自ら考え行動できるように個々の育ちに合わせた教育・保育を行うよう努める。

III. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1 教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思いなどを共有することができるか。またその為どのような取り組みがなされているか。	B	終礼の場で教職員全員で教育方針や目標を唱和し、日々の教育の中で方針や目標に沿った活動がなされているかを確認するようにしている。
2 指導計画の作成と評価	自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	年間カリキュラム・月案・週案の会議をもち、前年度の記録を基に早めの計画を立てている。また、各クラスの週案に基づいたクラスの計画という点では各担任の経験の個人差もあり、十分でない点があることは否めない。
3 指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	静と動の活動を取り入れ、子ども自身が選択できる自由活動の場面と、活動の偏りのないようにバランス良く計画をたてた保育を行っている。月2回以上、朝の自由あそびの時間を長く取り、戸外活動がしっかりとできるように取り組んでいる。
4 教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるように環境構成ができているか。またその為どのような取り組みを行っているか。	A	異年齢で構成されたチームを作り、月2回程度、一緒に遊ぶ時間を設けている。また、普段の活動の中でも異年齢を意識した言葉がけを心がけ、子供同士が生活の中でも異年齢のかかわりが自然に行えるように努め、憧れや思いやりの気持ちを持てるように進めている。

平成 26 年度 学校評価
結果公表シート

学校法人廣瀬学園
東よさみ幼稚園

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況
5	研修・研究への取り組み	B	園外の研修案内については、経験年数や学年などに応じて個々の教師の課題から進んで取り組めるようにしている。研修後は報告書に記録し、重要な研修や参考になる資料は、他の教職員に配布し、報告を行っている。
6	安全管理体制の整備	B	防災・防火については緊急時に備え、避難訓練を定期的に行っている。また、不審者への警告となるよう防犯カメラの設置を目立つように張り紙等を行い、オートロック開閉での人物確認を徹底している。総合遊具の点検は学期に1度は行っているが、怪我の起こりやすい場所についての改善をより強化したい。救命講習の研修を全教職員が受講し、アナフィラキシーショック時のエピペンの使用方法などの講習会にも積極的に参加している。
7	衛生管理体制の整備	A	登園時・外あそび後・食事やおやつ前などのうがい・手洗い・手指の消毒を徹底し、教師が感染の媒体にならないよう教師自身の手指の消毒や配膳時のビニール手袋の着用などを徹底して行っている。またトイレ掃除においても殺菌・消毒を行うようにしている。嘔吐物や排泄物に対しての処理の仕方はマニュアルを作成し、全教職員が共通理解し、感染を広げないように努めている。
8	地域の人々、自然との関わり	B	小学校との交流会・中学校の職場体験の受け入れ、地域の敬老会への参加、養護老人施設への訪問など、積極的に参加し、地域の人々との関わりを持っている。また、みかん狩りやどんぐり拾いなど、季節に応じた園外保育を行い、事前の移り変りを感じる機会を設けている。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の反省は個々でもしっかり取り組めており、学年内での活動や目標の共有はできている。今後は学年を超えた反省と担任の経験の個人差をどう補っていくかが課題である。また、障がい児の個別指導計画の立案も具体的に行っていく必要がある。
2	教育環境の構成	異年齢保育は、当園の大きな特徴であり、ひよこ園ができたことにより、乳児との交流をより深めていく必要がある。幼児同士の取り組みは自発的に異年齢がかかわりをもち、一緒に遊ぶ様子が多くみられる。食育の点では、夏野菜などの収穫や調理などを実際に体験することで、嫌いなものも食べられたという経験から幼児が自信を持ち、活動できるよう今以上の取り組みを行っていききたい。
3	衛生管理体制の整備	防災対策は避難訓練を前年度より多く行い、突然のことでも対応できるように行ってきたので、引き続き、様々な訓練を行っていききたい。大小さまざまな怪我についての処置の仕方や緊急性が高い怪我においてもあわてることなく対応できるように今後は怪我についての対応をより深く学び実践できるよう努めたい。
4	地域との連携	小学校・中学校の交流は行っているが、年に数回程度なので、より回数が重ねられるように地域との連絡を密にとり、園児同士の異年齢の関わりだけでなく、小学校・中学校・お年寄りも含め、これも異年齢の関わりととらえて、活動を行っていききたい。また、園外にでることばかりではなく、地域の方に来園して頂く機会を増やせるように検討し、情報発信を積極的に行っていききたい。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適性に行われていると判断できる。日頃から先生方の一生懸命な姿や、保育に対する姿勢は素晴らしいものだと感じており、この学校評価での反省を活かしてほしいと思う。来年度は新制度の認定こども園となることで、体制等変化があると思われるが、しっかり対応していただきたい。

